

がつかぐいんふくいんか だい か 7月学院福音化、第3課

がくいんふくいんか だい か
学院福音化、第3課「パウロのなげき」です。

もくそう じぞくてき しんこう 黙想：「持続的な信仰」

せんしゅう か ないよう いっしょ もくそう よ
先週2課の内容とつなげて一緒に黙想してください。ガラテヤ3:1-5を読みます。

- 1 ああ、^{おろ}愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、^{め まえ えが だ}目の前に描き出されたというのに、だれがあなたがたを^{まど}惑わしたのですか。
- 2 これだけは、あなたがたに^き聞いておきたい。あなたがたが^{みたま う}御霊を受けたのは、^{りっぼう}律法を^{おこな}行ったからですか。それとも^{しんこう}信仰をもって^き聞いたからですか。
- 3 あなたがたはそんなにも^{おろ}愚かなのですか。御霊によって^{はじ}始まったあなたがたが、^{いま}今、^{にく}肉によって^{かんせい}完成されるというのですか。
- 4 あれほどの^{けいけん}経験をしたのは、^{むだ}無駄だったのでしょうか。まさか、^{むだ}無駄だったということはないでしょう。
- 5 あなたがたに^{みたま あた}御霊を与え、あなたがたの間で^{あいだ ちから}力あるわざを^{おこな}行われる方は、あなたが^{りっぼう おこな}律法を行ったから、^{しんこう}そうなるのでしょうか。それとも^き信仰をもって聞いたから、^きそうなるのでしょうか。

ガラテヤ^{しょう}3章では、^{しょう}2章の内容に^{つづ}続き、^{しんこう こうい たいりつ}信仰と行為の対立する^{じょうきょう なか}状況の中で、^{しんこう}信仰の^{せんぞ おお こくみん ちち}先祖（多くの国民の父）であるアブラハムを^{れい あ}例に^{しんこう}挙げて、^{ぎ みと}信仰によって義と認められることを^{せつめい}説明しています。^{つづ}続けて6-7節を^{せつ よ}読みます。

- 6 「アブラハムは^{かみ しん}神を信じた。それで、それが^{かれ ぎ みと}彼の義と認められた」とあるとおりです。
- 7 ですから、^{しんこう}信仰によって^い生きる人々こそアブラハムの^こ子である、と^し知りなさい。

アブラハムは信仰によって義と認められましたが、アブラハムがどのように信じて、義と認められたのかを見てみましょう。6節を引用したところが創世記15章6節です。



アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

「アブラハムが主を信じた」で、信仰と翻訳したヘブライ語「ウエヘミン (וַיִּשְׁמַע)」は、他の言語にはない「ワウ (ו/and) 連続法 (または継続法)」という形を持っています。これはアブラハムの信仰が持続的で継続的だったことを意味します。しかし、創世記15章以降のアブラハムの人生を見ると、彼が神を信じたという内容が全く出ていないことがわかります。見てみましょう。

創世記16章では女奴隷ハガルを通してイシュマエルを生まれます。17、18章では神様が再びサラを通して子孫をくださると約束されたのに、サラと一緒に笑います。アブラハムは笑いながら言ったことを見ましょう。創世記17:17-18節です。

17 アブラハムはひれ伏して、笑った*。そして心の中で言った。「百歳の者に子が生まれるだろうか。サラにしても、九十歳の女が子を産めるだろうか。」

18 そして、アブラハムは神に言った。「どうか、イシュマエルが御前で生きてくれますように。」

*「笑った」は、「あざ笑った」という意味です。

完全に不信仰になっている場面です。

これだけでなく、20章では、自分の妻サラをゲラルの王アビメレクに妹だとして二回目売ってしまいます。この時はサラがイサクを妊娠までした時です。いったいアブラハムが何を続けて(持続して)信じたということであり、神様はアブラハムのどんな信仰

を義と認められたのでしょうか。

アブラハムの信仰はどんな信仰を言うのでしょうか。それはまさにアブラハムを持続的に掌握して導いて行く神様の信仰を言っているのです。神様の信仰が絶えずアブラハムを支配しているので、彼は相変わらず罪人であるにもかかわらず、彼を義人と見なしてください。ここで「認められる」(創世記15:6、ガラテヤ3:6)というこの言葉も、私たちが逃してはならない言葉です。実際には「そうではない」のですが、「そうだ」と認めてください。アブラハムが信じたわけでもなく、義でもありませんが、神様の信仰がアブラハムを掌握し、信仰の完了地点まで導いていくので、「アブラハムが神様を信じた、義と認められた」というのです。これが私と皆さんの人生です。

聖書は、アブラハムを信じるすべての者の先祖と言われています。アブラハムを掌握して導かれた神様の信仰が、今私と皆さんの中にあり、完璧に導いておられます。それで、その信仰の道を歩んでいるすべての者が、アブラハムとともに神の国を相続として受けたアブラハムの子孫なのです。



最後にガラ3:8-9節を読んで終わります。

- 8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とお認めになることを前から知っていたので、アブラハムに対して、「すべての異邦人が、あなたによって祝福される」と、前もって福音を告げました。
- 9 ですから、信仰によって生きる人々が、信仰の人アブラハムとともに祝福を受けるのです。

この祝福がみなさんの残りの人生にあることを願い、祝福します。